

これだけの社会資源が存在していることは、結核問題を克服しつつある米国のニューヨーク、現在深刻な結核問題に苦しんでいる英国のロンドンと比べると決して劣るものではないと思われる。しかし、この地域の結核問題を解決するために患者の実態を分析し、社会の総力を挙げた戦略的な結核対策の推進体制の確立の点では違いがあるように思われた。治療が必要と判断された結核患者は、本年度の就労ができなくなる、テントや荷物をどうするかの問題、友人関係の問題、医療機関への信頼問題、病気についての相談相手の不在、無保険であり経済負担が困難である、身近なところに結核受診医療機関がないなどの様々な個別な問題を持っていた。平成16年度は、検診機関、生活保護行政、医療機関と十分な連携体制づくりに時間をかけ、結核検診および事後にNPO、大学等の関係スタッフがマンツーマンのサポートを行うことによって脱落者を防ぐことができた。これらのことは野宿生活者の結核問題は克服困難なものではなく、野宿生活者の生活実態、行動形態に合わせた戦略的な結核対策を行えば、近い将来、克服可能であることを示唆するものであった。

E. 研究発表

- 1) 高鳥毛敏雄, 逢坂隆子, 黒田研二. ホームレス者の健康・生活実態に関する調査その6; 救急病院と無料低額診療病院の入院患者の比較 第51巻第10号特別附録: 414, 2004.
- 2) 高鳥毛敏雄・多田羅浩三. 野宿生活者自立支援対策の推進と結核対策 第79回日本結核病学会総会 2004.
- 3) 高鳥毛敏雄. ロンドンと大阪の結核対策の比較研究 第80回日本結核病学会総会 2005.
- 4) 西森琢, 高鳥毛敏雄, 山本繁, 逢坂隆

子, 黒田研二. 野宿生活者に対するするNPOと研究チーム協働した結核検診 第80回日本結核病学会総会 2005.

5) 高鳥毛敏雄. シンポジウム DOT Sの現状と将来 大阪を中心とした近畿地方の結核対策の動向 第93回日本結核病学会近畿地方会, 2004.

6) 高鳥毛敏雄, 西森琢, 安田誠一郎, 黒川渡, 下内昭, 逢坂隆子, 黒田研二. ホームレス者の健康・生活実態より、健康権を考える その2; 入院患者調査からみたホームレス者の医療保障の課題 日本社会医学学会総会 2004.

F. 研究論文

- 1) 高鳥毛敏雄, 多田羅浩三, 黒田研二, 逢坂隆子: 救急搬送要保護傷病入院患者の疾病構造と保健医療システムの現状の検討. 社会医学研究, 22, 2005. (投稿中)
- 2) 高鳥毛敏雄: 結核感染症の現状と今後の対策. 日本保険医学会誌, 103(1), 2005. (印刷中)
- 3) 高鳥毛敏雄: 英国、ロンドンで再興する結核とその対策. 公衆衛生, 69(3), 203-208, 2005.
- 4) 高鳥毛敏雄: 公衆衛生対策とリスクコミュニケーション. 公衆衛生, 68, 504-507, 2004.
- 5) 高鳥毛敏雄: 結核対策のブレークスルー. 公衆衛生, 68(3), 168-171, 2004.
- 6) 高鳥毛敏雄: 保健行政組織の見直し. 公衆衛生, 68(1), 19-22, 2004.

厚生労働科学研究費補助金（政策科学推進研究事業）
分担研究報告書

ホームレス者の食生活に関する調査分析
—大阪社会医療センター付属病院入院患者調査—

研究協力者 名倉育子（大阪樟蔭女子大学助教授）
分担研究者 逢坂隆子（四天王寺国際仏教大学教授）
主任研究者 黒田研二（大阪府立大学社会福祉学部教授）
研究協力者 針原重義（大阪社会医療センター付属病院院長）
同 上 安部満枝（大阪社会医療センター付属病院・相談室室長）

研究要旨

目的 都市部におけるホームレス者の心身の健康におよぼす影響について食生活状況に関する調査を実施し、その影響を考察する。

方法 大阪社会医療センター付属病院に入院患者 116 名を対象として、食生活に関する聞き取り調査を行った。調査時期は、8月から11月である。入院前の1週間について聞き取り調査を行なった。調査項目は、生活状況、生活習慣、食生活状況等である。対象者の平均年齢は、56.4±7.6歳であった。

結果 ホームレス者は、一般の同年齢男性に比べて、生活上のストレス、睡眠時間、収入や食事の貧困さ、飲酒状況等から健康を損なう可能性が高いことが示唆された。また、同じホームレスの中でも簡易宿泊所投宿者に比べて、野宿者の食生活の現状は厳しいもので、健康を保持するための食事の貧困な状況が示された。

結論 生きていくための基本的ニーズのひとつである「食」を充足させるためにも、健康状態を保持できる食事の確保や緊急の支援対策が必要とされる。

A. はじめに

2001年1月に大阪市が行った「野宿生活者（ホームレス）に関する総合的調査報告書」（以下、大阪市報告書）¹⁾のよると、ホームレスの80%が自らの生存と生活を維持するために、何らかの「仕事」に従事しており、そのうち、仕事としては87%の者が廃品回収の仕事をしていること、さらに76%が1ヶ月に20日以上働いていて、仕事の時間は夜間や早朝が多くなっているこ

となどが明らかになっている。「収入なし」を含めると、1ヶ月の収入額が5万円未満の人が約7割を占めている。さらに、野宿期間は、1年以上が約8割（78.3%）を占めており、長期化している人が多くなっていることが報告されている。このような生活環境における日々の食生活の積み重ねはホームレス者にとってはとくに健康状態と密接にかかわってくるものと思われる。

近年都市部で急増しているホームレス者

の健康状態については、逢坂らにより、肺炎、餓死、凍死をはじめ、予防可能な死因による死亡が極めて多く、必要な医療および生命を維持するための最低限の食や住が保障されていないということが示唆されている²⁾。しかし、ホームレスの人々を支援していくためには、基盤となる健康状況と食生活状況の実態把握が必要であると考えられるが、食生活に関する調査がほとんどなされていないのが現状である。

そこで、本研究は、ホームレス者の健康状態を把握するためにも日々の食生活の現状を知ることを目的として実施したものである。本報告は、医療機関受療者を対象として、生活および食生活状況について聞き取り調査を行い、その結果をまとめたものである。

B. 対象者と方法

対象者は、大阪社会医療センターに入院中の患者である。調査協力に同意を得られたのは116名であり、調査拒否は1名であった。調査期間は、平成16年8月から11月である。対象者の平均年齢は、 56.4 ± 7.6 歳であった。調査項目は、生活状況、生活習慣、食生活状況等である。なお、本調査では、日頃の生活習慣や生活状況、入院前の1週間の食生活状況について聞き取り調査を行った。

倫理面での配慮として、調査前に医療相談員（研究協力者）より予め聞き取り調査が行われることを周知させておいた後、聞き取り調査を実施した。調査時に「大阪社会医療センター付属病院入院患者歯と食事に関する調査ご協力お願い」を手渡した上で、調査の目的などの説明を口頭で十分に行った。その主旨を理解納得した患者が「同

意書」に署名した後に、「患者への説明確認書」を聞き取り調査員が患者各人につき署名することにより、上記の手続きを実施したことの確認を行い、聞き取りを開始した。

住まいの状況を、日頃寝起きをする場所について「アオカン」、「自前のテント」、「シエルター」と回答した者を「野宿者」、それ以外の者を簡易宿泊所投宿者とした。さらに、簡易宿泊所投宿者については、食事の提供のない「ドヤ・アパート」生活者と、食事の提供のある「飯場・施設・ケアセンター・その他」（以下、「飯場・施設等」）に分類して分析を行なった。統計解析ソフトSPSS10.0J for Windowsを用いた。2群間の有意差検定はカイ二乗検定、平均値の有意差検定はt検定によった。

なお、大阪医療センター付属病院³⁾は、あいりん地域の広く医療を必要とする人々に対し適切かつ迅速な医療を行い、地域住民の保健と福祉の増進をはかり、明るい町作りの推進に寄与することを目的として昭和45年7月1日に設立されたものである。診療科は内科、精神科、外科、整形外科、皮膚科、泌尿器科で入院時診療科は内科、外科、整形外科のみである。患者の疾病構造としては、関節症などの整形外科的疾患と、胃腸疾患、高血圧、糖尿病などである⁴⁾。

C. 分析結果

1) 対象者の基本属性

本調査の対象者について、同意を得られた総数116人の住まいの状況（複数回答）について、最も割合が高かったのはドヤ（簡易宿舎・ホテル）51人（45.1%）、ついで野宿（アオカン）42人（37.2%）であった。アパート（文化住宅）およびシエルターは

それぞれ24人(21.2%)、飯場15人(13.3%)、ケアセンター11人(9.7%)、その他10人(8.8%)、テント・施設(仮設避難所も含む)4人(3.5%)であった。全体では、野宿や自前のテントやシェルターを利用している「野宿者」の割合は31.9%、簡易宿泊施設のなかでも「ドヤ・アパート」生活者は51.3%、「飯場・施設等」を利用していた人は16.8%であった。

年齢区分は、50～59歳が64人(55.7%)で最も多く、ついで60～69歳が27人(23.5%)であった。50歳未満が17人(14.7%)、70歳以上の者は7人(6.1%)であった。平均年齢は、「野宿生活者」は55.1±6.8歳、「ドヤ・アパート」生活者は58.4±8.3歳、「飯場・施設等」生活者は54.9±7.3歳であった。(表A-1)、(表A-2)

入院前の健康保険の種類については、約半数は「なし」であった。とくに、「野宿者」では約7割、「ドヤ・アパート」生活者においても約3割であった。(表A-3)

収入源(複数回答)については、「野宿者」では他の現金仕事(現場での土木作業など)36.7%、その他34.7%、カン・古雑誌集め22.4%、特別清掃22.4%の順であった。「簡易投宿者」では、「他の現金仕事」や「その他」がほとんどであった。「野宿者」にはみられなかった年金をもらっている人もみられた。(表A-4)

1ヶ月の平均収入については、「野宿者」では「30,000～50,000円未満」が最も多く30.2%であり、「なし」の者も14.0%であった。50,000円未満は6割を占めていた。一方、簡易投宿者では100,000円以上の者は6割以上であった。野宿生活者は一ヶ月の平均収入が5万円未満の人の割合が高いのに対し、簡易投宿者は100,000円以上の人

の割合が高かった。両者間の平均収入の差は有意であった。(p<0.001)(表A-5)

釜ヶ崎に来てからの年数は、「野宿者」では36.7%、「ドヤ・アパート」生活者では39.0%が20年以上であった。野宿生活者および簡易投宿者の半数の人は10年以上であった。(表A-6)

入院前の健康感については、「野宿者」では「どちらかといえば悪い」と回答した人が最も多く、38.8%であり、「悪い」と回答した人は30.6%であった。簡易投宿者では「ふつう」と回答した人が最も多かった。「野宿者」の多くが入院前の自分の健康状態はよくないと思っていることが明らかであった。野宿での生活中に健康上何らかの異常を感じていたことが推測される。(表A-7)

退院後に困ること(複数回答)については、全体的にみると、「住まいのこと」、「仕事のこと」や「健康のこと」に不安感を抱いている人が多いことがうかがえる。とくに、「野宿者」では、77.6%の人が「住まいのこと」について不安であると回答した。ついで「仕事のこと」、「健康のこと」、「食事のこと」であった。簡易投宿者においても同様の結果であった。(表A-8)

BMI(Body mass index、体重を身長²で除したもの)により肥満度を分類すると、全体では「普通」の人が6割、「肥満」は2割、「やせ」は1割であった。住まいの状況別にみると、「野宿者」では「やせ」が20.4%であり、「ドヤ・アパート」生活者では8.7%であり、「飯場・施設等」の人には「やせ」の人はみられなかった。平均BMI(kg/m²)は「野宿者」は21.8であり、「ドヤ・アパート」生活者は22.2、「飯場・施設」生活者は23.2であった。両者間には有意な差はみられなかった。(表A-9)

2) 日頃の生活習慣について

たばこを「吸う」と答えた人の割合は82.8%であり、ほとんどの人が喫煙していることが示された。また、「吸う」と回答した人の一日に吸う本数は、1日「11～20本ぐらい」と答えた人が全体の58.9%であった。平成14年厚生労働省国民栄養調査結果（以下、国民栄養調査・50～59歳代の男性）⁵⁾と比較すると、喫煙本数は少ないが、喫煙率はホームレス者が高いこと示された。

（表B-1-1、表B-1-2）

飲酒習慣については、日頃お酒を飲むかどうかとの問いに対し、「はい」と回答した人は全体の67.0%であった。他市^{6~7)}および国民栄養調査⁵⁾と比較しても飲酒者が多いことが明らかであった。そのうち主に飲むお酒の種類は、「野宿者」および「ドヤ・アパート」生活者においては日本酒が最も多く、「飯場・施設」生活者においてはビールが最も多かった。また一日の平均摂取アルコール量は79.7gであった。これは日本酒にたとえると約3.5合に当たる。国民の一日の平均摂取アルコール量と比較すると、ホームレス者と年齢が同じ世代の50～59歳の男性では22.1g（日本酒1合）であり、ホームレス者の一日の平均摂取アルコール量は国民の一日の平均摂取アルコール量をはるかに上回っていることが示された。

（表B-2-1、表B-2-2、表B-2-3）

また、飲酒回数については、「毎日飲んだ」と答えた者は64.9%であり、「野宿者」においては約7割であり、他市の同年齢の男性に比べ多いことが示された。「ほとんど飲まなかった」と回答した人は全体の116人中1名のみであった。（表B-2-4）

「毎日飲んだ」と答えた人において、最

近6ヶ月の間に飲酒した際に起こったことについて最も多かったのは、「せめて今日だけは酒を飲むまいと思っても、つい飲んでしまうことが多い」ということであり、全体の47.9%であった。「野宿者」においては60.0%であった。ついで、「酒を飲んだ翌朝に前夜のことが思い出せないことがしばしばある」と答えた人は41.7%、「適量でとめようと思っても、つい酔いつぶれるまで飲んでしまう」と答えた人は33.3%であった。お酒を飲むまいと思っても飲んでしまったり、一度飲むとおぼれるまで飲んだり自分で量をコントロールできない人が多いことがうかがわれた。お酒はホームレス者の大半にとっては欠かせないものであり、なかには一日の食事をお酒だけで済ませている人や朝から飲んでいる人もみられた。（表B-2-5）

日頃の睡眠状況については、「あまり眠れない」または「ほとんど眠れない」と答えた人は「野宿者」に最も多く、44.9%であった。その理由については、「夜中に何度も目が覚めてしまう」と答えた人が多くみられ、1日の睡眠時間は、5時間未満の人が6割であった。（表B-3-1、表B-3-2）

生活のストレスが自分の健康に及ぼす程度について尋ねたところ、「影響なし」と答えた人は全体では40.0%であった。「野宿者」においては、「かなり強い」または「非常に強い」と回答した人は24.5%であった。他市^{6~7)}および国民栄養調査⁵⁾とは尺度は異なったが、ストレスを感じている人は6割であり、ストレスが自分の健康を害していると感じている人が多いことがうかがわれる。（表B-4）

また日頃の排便回数については、「1日1回以上」と答えた人は69.6%であり、半数

以上の者は1日に1回は排便があった。「野宿者」では61.2%、簡易投宿者では7割以上であった。「2～3日に1回」「1週間に1回」と毎日排便していない人の割合は「野宿者」でやや高かった。なかにはストレスからくる便秘気味の者やお腹をこわしがちな人もみられた。(表B-5)

3) 食生活状況について

1) 食事の摂取頻度について

朝食について「毎日食べていた」と答えた人は全体では56.1%であり、「ほとんど食べなかった」と答えた人は19.3%であった。朝食の欠食者の割合は、平成14年度国民栄養調査の一人世帯の50～59歳の朝食の欠食率³⁾をみると、50～59歳男性では「何も食べなかった」人は6.1%であり、ホームレスの方が朝食をとっていない人の割合は高かった。なかでも、「野宿者」においては「ほとんど食べなかった」と回答した人は28.6%であり、「たまに食べる程度」と回答した人を合わせると約5割であった。簡易投宿者のうち、「ドヤ・アパート」生活者は20.0%、「飯場・施設等」生活者は25.0%であった。また、他市^{6～7)}の調査結果との比較からも、本ホームレス者の朝食の欠食率は高かった。(表C-1)

昼食については、簡易投宿者では7割以上の人は「毎日食べていた」と回答したのに対し、「野宿者」においては半数以下であった。「たまに食べる程度」と「ほとんど食べなかった」と回答した人を合わせると32.6%であった。夕食についても、「毎日食べていた」人の割合は、「野宿者」では53.1%、簡易投宿者では9割以上であった。夕食を「食べていなかった」と「たまに食べる程度」と回答した人を合わせるとその割合は、

「野宿者」では14.3%、「簡易投宿者」においては約1割であり、やや「野宿者」の割合が高かった。国民栄養調査³⁾の同年代の男の一人世帯との比較からも、本ホームレス者の昼食および夕食の欠食率も高かった。(表C-2)(表C-3)

朝食、昼食および夕食それぞれの摂取頻度について、「野宿者」と「簡易投宿者」の2群間において、「毎日食べる」および「週に5～6日食べる」と回答した者の割合には有意な差がみられ($p < 0.001$)、「野宿者」では「簡易投宿者」より、朝食、昼食、夕食の摂取している割合は低いことが示された。

そこで、「食事を一食も食べられなかった日が1週間に何日ありましたか」という質問に対し、「0日」と回答した人は、「ドヤ・アパート」生活者では95.6%、「飯場・施設等」生活者では約85%であった。これに対して、「野宿者」では半数の者が「1日以上」と回答した。「4日以上」と回答した人も4.2%であった。「簡易投宿者」では1日一食は必ず何かを口にしていたのに対し、「野宿者」の約半数の人は1日以上1食も食べられなかった日があったことが示された。(表C-4)

2) 食べ物の入手先

また食べ物の主な入手先(複数回答)は、「野宿者」では「弁当を買う」と答えた人の割合が57.1%、「外食」、「炊き出し」と答えた人はいずれも40.8%であった。ついで「コンビニなどの廃棄食品」24.5%、「キリストのパン(教会で配られているパン)」20.4%、「仲間からの差し入れ」4.1%であった。「ドヤ・アパート」生活者においても「弁当を買う」と回答した人の割合が最も

高く、ついで「外食」、「自炊」の順であった。「飯場・施設等」生活者においても同様であり、「その他」と回答した人は30%であった。これは働いているところから出される食事や施設、ケアセンターにおける食事であった。(表C-5)

炊き出しの利用については、「利用していた」と答えた人は、住まいの状況別にみると、「簡易投宿者」においては20~30%であるのに対し、「野宿者」ではその割合は高く、68.8%であった。「野宿者」においては「炊き出し」に依存していることがうかがわれる。「野宿者」の利用頻度については、「週に1~2回」、「週に3回」と答えた人がそれぞれ37.5%、21.9%であった。「毎日1回以上」と答えた人は12.5%であり、7割の人が週に1回は利用していたことが示された。利用場所としては、「三角公園」が最も多かった。(表C-6-1. 表C-6-2. 表C-6-3)

3) 主な食品類の摂取頻度

インスタントラーメンやカップめん(うどん)の摂取頻度については、「野宿者」および「ドヤ・アパート」生活者の約1割は「毎日」あるいは「週5~6日食べていた」と回答したが、「飯場・施設等」生活者においては全くいなかった。1日に食べる個数は「1個」と答えた人が9割であったが、「野宿者」および「ドヤ・アパート」生活者では「2~3個」あるいは「4個以上」と回答した人もあった。さらに、その汁については、「全部飲んだ」と答えた人は7割であった。ほとんどの人がインスタントラーメンを食べる際には、汁をほとんど飲んでいるということが示された。(表C-7-1. 表C-7-2. 表C-7-3)

卵や肉や魚類の摂取頻度について、「毎日食べていた」と答えた人は、全体では45.2%であった。しかし、「飯場・施設等」生活者においては、75.0%であったのに対し、「ドヤ・アパート」生活者では56.5%、「野宿者」においては22.4%にすぎなかった。「野宿者」の3割は、「たまに食べる」または「ほとんど食べなかった」と回答した。漬物以外の野菜類の摂取頻度については、「毎日食べていた」と答えた人は全体の20.0%であり、ホームレス者の半数は「たまに食べる」または「ほとんど食べなかった」という状況であった。とくに、「野宿者」では7割以上の方が、「ドヤ・アパート」生活者では4割の人が「たまに食べる」または「ほとんど食べなかった」と回答し、摂取頻度の低さが明らかであった。他市^{6~7)}との比較においても、ほとんどのホームレス者が野菜類をあまり摂取していないことが浮き彫りになった。果物の摂取頻度についても、野菜類以上に摂取頻度の低い人が多いことが示された。(表C-8. 表C-9. 表C-10)

一方、缶コーヒー、スポーツ飲料、健康飲料などの嗜好飲料の摂取頻度については、「毎日飲んだ」と答えた人は全体では53%であった。とくに「ドヤ・アパート」生活者や「野宿者」において「毎日飲んだ」と答えた人が多くみられた。1日に飲む量は、「1~2缶」と答えた人が半数以上であったが、「3~4缶」と答えた人も3割みられた。「ドヤ・アパート」生活者では、半数が「3~4缶」以上飲んでいることが示された。「10缶以上」と回答した人もみられ、これらの甘い飲料を飲んでいる人の多さが目立った。(表C-11-1. 表C-11-2)

食事以外のおやつについては「食べていた」と答えた人は少なかったが、「野

宿者」においては「毎日食べていた」と答えた人がやや多く、23.4%であった。内容としては、おまんじゅうなどの和菓子や菓子パンを好んで食べていた。(表 C-12)

4) 味付け、食事時間の規則性、食べる早さ、食事の量について

普段の味付けの好みを尋ねたところ、全体では、「塩辛い味を好む」と回答した人が最も多く、53.5%であり、ついで、「油っぽい味を好む」と回答した人は23.3%であった。「野宿者」においてはとくに、「塩辛いもの」、「油っぽいもの」、「甘いもの」を好む人が多く、味の嗜好がそのまま食事内容につながっているということがうかがえた。(表 C-13)

食事の時間について、「少し不規則だった」あるいは「全く不規則だった」と答えた人は全体の6割であり、朝、昼、夜と規則正しい食生活を営んでいる人は少なかった。とくに、「野宿者」においては82.9%の高い割合であり、「ドヤ・アパート」生活者においても50.0%であった。規則正しく食事をしていて感じていた人は「ドヤ・アパート」生活者に多くみられたが、不規則な食事をしていて感じていた人は「野宿者」に多かった。食べる早さについては、野宿生活者と簡易投宿者との間に大きな差はみられなかった。(表 C-14) (表 C-15)

日頃の食事の量はどのぐらいだったのかを尋ねたところ、「野宿者」では「いつも満腹になることが多い」と答えた人はわずかに6.1%であったが、「飯場・施設等」生活者においては35.0%であった。「いつも空腹状態にあった」と答えた人の割合は「野宿者」に多く20.4%であった。「多かったり少なかったり一定しなかった」または「腹八

分目」と回答した人は「野宿者」および「ドヤ・アパート」生活者に多かった。「野宿者」の食事の量は不安定で、満たされていないことが明らかになった。日頃の食事の量については、「多かったり、少なかったり、一定しなかった」と答えた人が3割いることが目立った。(表 C-16)

5) 自分の食生活について

日頃、食事を摂るときに組み合わせを考えていたかどうかを尋ねたところ、「全く考えていなかった」と答えた人は全体で55.7%であった。「飯場・施設等」生活者では30.0%であったのに対し、「ドヤ・アパート」生活者では56.7%、「野宿者」においては高く65.3%であった。他市^{6,7)}や平成12年度の国民栄養調査⁸⁾と比較すると、本対象者では「全く考えていなかった」と答えた人の割合は極めて高く、その中でも「野宿者」は、「簡易投宿者」に比べると食事の組み合わせを考える余裕はないということが明らかになった。(表 C-17)

さらに、自分の食生活について、どのように思っていたのかを「大変よかった」・「よかった」・「ふつう」・「少し問題あり」・「問題が多かった」の5段階で評価してもらったところ、「問題がある」と思っている人が全体の6割であった。「大変よかった」と回答した人は「野宿者」には一人もおらず、「簡易投宿者」のみ2.6%であった。「問題が多かった」と答えた人は、「野宿者」では51.0%であり、半数以上であった。全体的にみると、「大変よかった」「よかった」「ふつう」と答えた人を合わせると、その割合は簡易投宿者において高く、「問題が多かった」と答えた人は「野宿者」に多かった。他市^{6,7)}や国民栄養調査⁸⁾の結果からも

「問題が多かった」と回答した人は本対象者に多く、自分の食生活状況は悪いということを実感していることが示された。約 8 割の「野宿者」は自分の食生活に問題が多いと感じていた。両者間には有意な差異がみられた ($p < 0.001$)。

自分の食生活について今後どのようにしたいと思っているのかを尋ねたところ、「今よりよくしたい」と思っている人は、全体で 56.5% であり、他市⁶⁾や国民栄養調査⁸⁾の結果とを比較しても、また、住まいの状況別にみてもほぼ同じ傾向であった。「今のままでよい」と思っている人は「飯場・施設等」生活者において、「とくに考えていない」と思っている人の割合は「ドヤ・アパート」生活者においてやや高かった。「今よりよくしたい」と思っていると回答した人の中で、「今よりよくする自信があるかどうか」を尋ねたところ、「自信がある」と答えた人の割合は、「飯場・施設等」生活者においては 72.7% の高い割合を示したのに対し、「野宿者」および「ドヤ・アパート」生活者においては「自信がない」と答えた人はそれぞれ 68.0%、55.6% の高い割合を示した。3 者間には有意な差異がみられた ($p < 0.001$)。その理由としては、経済的な理由が最も多く挙げられた。(表 C-18-1、表 C-18-2、表 C-18-3)

6) 聞き取りからみた食事内容について

日頃食べたいと思っていたものを挙げてもらったところ、「焼肉やステーキなどの肉料理」を食べたいと思っている人が 32.8% と最も多かった。ついで、魚料理のなかでも、「すし」、「お造り」などの回答もみられた。さらに、日頃食べていない「果物」や「野菜類」、「豆腐」などの食材を挙げた人

や「お菓子」を食べたいと思っている人もみられた。

また、「日頃の食事はどのようなものですか」という質問に対し、朝食、昼食、夕食それぞれ料理名を挙げてもらった。「野宿者」、「ドヤ・アパート」生活者、「飯場・施設等」生活者それぞれ分類してまとめた結果、主に食べていたものでは、弁当 (31%) や外食が多かった。

「野宿者」においては、「簡易投宿者」に比べ、3 食の欠食率は高く、食事メニューとしては、朝食には食パンや菓子パン、缶コーヒー、麺類など、昼食には炊き出しの利用や麺類、丼ものや弁当、定食などの外食、インスタントラーメンが多く挙げられた。夕食にはキリストのパンや昼食と同じメニューのものを食べている者が多くみられた。

「簡易投宿者」においては、外食、弁当が多く挙げられた。朝食は、モーニング、定食、スーパーで買ったお惣菜と自分で炊いたご飯や、コンビニのおにぎり、パンが多く、昼食にはラーメンやうどんなどの麺類、弁当では牛丼や幕の内、特に揚げ物が入ったものを好んで食べている人が多かったが、年齢の高い人では焼き魚や煮魚などが入っているものを選んで食べている人も多かった。夕食については「昼食と同じようなものを食べていることが多い」という回答が得られた。スーパーで買った惣菜と自炊したご飯とお酒、外食のどんぶりやラーメンなどを食べている人が多かったが、カップラーメンを食べていると答えた人もみられた。全体的にみると、朝はパンなどで軽く済ませ、昼は揚げ物などの入った弁当や定食、できあいのものを食べている人が多く、夜は昼と同じようなメニューにお

酒をプラスさせているというものもみられた。(表 C-19-1. 表 C-19-2. 表 C-19-3)

挙げてもらった食事のメニュー内容から、住まいの状況別に食事メニューのエネルギー、たんぱく質量、脂質および塩分量の平均摂取概量を算出した。その結果、「野宿者」の1日の平均摂取エネルギー量は約1,153kcalで、たんぱく質量は36g、脂質31g、塩分量は7gであった。「ドヤ・アパート」生活者ではそれぞれ1,500 kcal、49g、34g、10.8g、「飯場・施設等」生活者では1,860kcalで、たんぱく質量は61g、脂質55g、塩分11gであった。

日頃の食事内容やメニューを挙げてもらったものだけであるが、とくに「野宿者」においては甘いお菓子などや缶コーヒー等の間食やお酒の摂取頻度も高いことから、エネルギーは満たされていても食事内容の貧困さが示唆される。また、「簡易投宿者」においては、塩からい味や油っぽいものを好む人がほとんどであるため、調味料の摂取量も多いことが予測される。エネルギーや塩分量はこの数値以上の摂取をしているものと考えられる。

D. まとめ

同じホームレス者でも住まいの状況により、健康感、肥満度、収入などの生活状況に差がみられた。今回は、ホームレス者の中で「野宿者」と「簡易宿泊所投宿者（以下、簡易投宿者）」をさらに「ドヤ・アパート」生活者、「飯場・施設等」生活者に分類して生活習慣や食生活状況を比較すると以下の結果が得られた。

①生活習慣の喫煙および飲酒習慣については、「野宿者」と「簡易投宿者」の間には

大きな差はみられず、どちらも喫煙および飲酒割合は同年代の男性と比べ高かった。

②睡眠状況ではわずかな差ではあるが、「野宿者」の方が眠れないと答えた人が多かった。やはり野外で寝るということから安心して眠れない状況にあり、また気温の変化も直接体に影響してくることから、寝る場所の環境によって心理的にも「簡易投宿者」より負担が大きいのではないかと考えられる。

③生活におけるストレスや負担感は睡眠と同様に、「野宿者」の方が強く感じている人の割合が高かった。これは「簡易投宿者」と「野宿者」の仕事の違いも関係していると思われる。「野宿者」の多くには、安い賃金で過酷な仕事に従事しているという人の割合が高いため、「簡易投宿者」よりも負担感を感じる人が多く、さらに睡眠状況の悪さも加わりストレスも強くなるのではないかと考えられる。

④「毎日排便していない」と回答した人の割合も「野宿者」が高く、ストレスからか、あるいは食事量の不足や栄養の偏りからくるものではないかと推測される。

⑤食生活に関しては、朝食、昼食、夕食ともに「食べていなかった」人は「野宿者」に多く、「簡易投宿者」に比べると明らかに欠食が目立った。全体的にみても朝、昼、夕と3食とも食べている人は「野宿者」は少なかった。「1食も食べられなかった日があった」と回答した人は「野宿者」に多かった。

⑥食べ物の主な入手先からみても、「野宿者」と「簡易投宿者」との食事内容の違いが明らかであった。「外食」と答えた人は「簡易投宿者」に多く、「炊き出し」や「コンビニなどの廃棄品」、「キリストのパン」など

無料で配られているものを食べると答えた人は「野宿者」に多かった。そのときそのとき、自分が食べたいものを選んで食べられる外食とは異なり、同じパターンの「炊き出し」では毎日の献立に変化がつけられないため、「野宿者」の食事内容は偏る傾向にあることがうかがえる。

⑦カップラーメンを食べている人の割合も、汁をほとんど飲むと答えた人の割合も「野宿者」の方が高かった。手ごろな値段で手にはいり、汁を飲むと空腹も満たされるという回答が多かった。

⑧食事内容については、卵や肉や魚類等を「毎日食べている」と答える人は「簡易投宿者」に多く、「野宿者」では少なかった。また、野菜の摂取状況からも、両者とも「毎日食べている」と答えた人はほとんどいなかった。「野宿者」の栄養摂取状況の悪さが目立つ一方、炊き出しを利用している人々が「野宿者」には多くみられる。「野宿者」の栄養状態を向上するためにも具を入れた、とくに「炊き出し」には野菜類を多く入れたりすることが必要ではないかと考えられる。果物の摂取率は両者とも著しく低く、「野宿者」では8割の人が摂取していなかった。

⑨間食については、「野宿者」の方が食べている割合が高かった。これはきちんとした一食が食べられないため、安価で手に入りやすい菓子パンやお菓子、缶コーヒーなどの甘いものを好む人が多く、これらで空腹を満たしていることがうかがわれる。

⑩食事の規則正しさについても「飯場・施設等」生活者は朝、昼、夕と規則正しく食べられている人の割合が高いのに対し、「野宿者」や「ドヤ・アパート」生活者では不規則で、食事の量も多かたり少な

かたりと不安定な人や空腹である人が多かった。また、食事内容の組み合わせを考えて食べていた人は「野宿者」にはほとんどいなかった。また、毎日同じような食事内容の繰り返しの人も多かった。これも今日1日の食べ物を確保できるかできないかという状態に立たされている現状により、栄養バランスを考えで選んで食べるという余裕がないためであろうと考えられる。

⑪自分の食生活について満足していた人は「野宿者」には一人もいなかった。「簡易投宿者」に自身の食生活を「よい」と感じている人が多いのは、まだその日の食事を選んだり、買ったりして食べられるという余裕が「野宿者」よりもあるからであろうと思われる。今よりも食生活をよくしたいと思う人の中で「自信がある」と答えた人が「簡易投宿者」に多いことも、食事内容のバランスの悪さなどを自覚して変えていけるだけの余裕があることがうかがえる。今よりもよくしたいと思いつつも「自信がない」と答えた人は「野宿者」がほとんどで、その理由を尋ねてもやはり経済的な余裕がないからと答えた人が多かった。食べるということだけでも必死であり、バランスや食事内容を向上できるほどの余裕がないという厳しい状況に立たされていることがうかがわれた。

⑫1日の食事メニューのエネルギー量とたんぱく質をホームレス者と同じ世代の50～59歳男性と比較すると、国民男性（50～59歳）では1日の摂取エネルギー量は2,252kcal、たんぱく質量は84.2gであるが、本対象者では栄養的には満たされていないことがうかがわれた。とくに「野宿者」の1日の摂取エネルギー量は、国民男性の1日の摂取エネルギー量やたんぱく質量も約半

量程度であり、内容的には、たとえ間食、飲酒によりエネルギー量は充足されていても、たんぱく質の不足が懸念される。なかでも「野宿者」では、食事の確保に苦勞しており、食事内容もバランスが悪く、1日に必要な栄養素が摂取できていない状況であった。

E. 結語

大阪市のホームレス者の死亡調査⁶⁾では、野宿生活者の死亡の16%が栄養失調や餓死または凍死によるものであり、そのものの中には生活保護や年金を受給していることが判明しているものはなく、他の死因に比して死亡時所持金が有意に少ないことから極度の経済困窮の中で低栄養状態・全身衰弱となり、死を迎えたものと思われると報告している。

聞き取りを行なったホームレス者は、ホームレスになった、あるいは、ならざるを得なかった理由は様々であり、なかには社会生活自体を拒否している人もみられたが、就労する意欲はあっても仕事がなく失業の人や、医療や福祉などの援護を必要としている人達であった。「野宿者」の半数が食事を一食も食べられない日が1週間に1日以上あるということは「食」という問題において、生きるか死ぬかの瀬戸際に立たされているということを示唆するものである。また、本対象者の入院している大阪社会医療センター附属病院患者³⁾には、整形外科疾患や胃腸などの消化器系疾患だけでなく、高血圧、糖尿病などの慢性疾患の患者が多いことは、日頃の食事はとくに、ホームレス者の健康状態や病状に大きく影響を及ぼしている可能性の大きいことを示しているといえよう。本調査結果により、貧困な現

実の食事内容や食事のとり方を含めた食生活状況は、ホームレス者の身体的・精神的健康状態に拍車をかけるものであり、深刻な状況であることが示された。

ホームレス者の自立支援を促すための支援をはかることは、食生活状況の改善につながるものである。しかし、栄養失調者や凍死や餓死者を一人でも少なく、また、ホームレス者の身体状況を少しでも改善するためには、早急な支援が必要であると考えられる。「今、何ができるか」、ということを考えて、現在多くのホームレス者が依存している種々のボランティアからの「炊き出し」の内容などを少しでも充実させたり、緊急施設所やケア・センターでの食材の援助や自炊できる人への啓蒙なども必要ではないかとも考えられる。ホームレス者のおかれている食生活状況を少しでも上向きに進められるように、実態を把握し、具体的な改善案を検討していくことが今こそ必要ではないかと考える。

参考文献

- 1) 大阪市「野宿生活者（ホームレス）に関する総合的調査報告書」2001年8月
- 2) 逢坂隆子・坂井芳夫・黒田研二・的場梁次、「大阪市におけるホームレス者の死亡」、日本公衆衛生雑誌第50巻第8号、686-696、2003
- 3) 社会福祉法人大阪社会医療センター、「大阪社会医療センターの概要」、2003
- 4) 黒田研二他、「ホームレス者の医療ニーズと医療保障システムのあり方に関する研究平成15年度総括・分担研究報告書」平成16年3月
- 5) 健康・栄養情報研究会、「国民栄養の現状（平成14年厚生労働省国民栄養調査結

- 果)」第一出版株式会社，2003
- 6) 摂津市健康づくり推進協議会保健調査部
会.摂津市保健福祉部健康推進課.大阪大
学大学院医学系研究科社会環境医学講座,
「健康せつつ 21 調査報告書」平成 13 年
3 月
- 7) 伊丹市市民福祉部地域福祉室健康福祉担
当.大阪大学大学院医学系研究科社会環
境医学講座,「伊丹市民健康アンケート調
査報告書」平成 13 年 3 月
- 8) 健康・栄養情報研究会,「国民栄養の現
状(平成 12 年厚生労働省国民栄養調査結
果)」第一出版株式会社，2001

表A-1
住まいの状況(複数回答)

	n	%
野宿(アオカン)	42	
%		37.2
自前のテント	4	
%		3.5
シェルター	24	
%		21.2
ドヤ	51	
%		45.1
飯場	15	
%		13.3
アパート	24	
%		21.2
施設	4	
%		3.5
ケアセンター	11	
%		9.7
その他	10	
%		8.8
n	115	

表A-2
対象者の住まいの状況と年齢区分

	野宿者	簡易宿泊投宿者		合計
		ドヤ・アパート	飯場・施設等	
39歳以下	1	1		2
%	2.0	2.2		1.7
40歳～49歳	7	4	4	15
%	14.3	8.7	20.0	13.0
50歳～59歳	29	23	12	64
%	59.2	50.0	60.0	55.7
60歳～69歳	11	13	3	27
%	22.4	28.3	15.0	23.5
70歳以上	1	5	1	7
%	2.0	10.9	5.0	6.1
合計	49	46	20	115
%	100.0	100.0	100.0	100.0

表A-3
住まいの状況別にみた入院前の健康保険

	野宿者	簡易宿泊投宿者		合計
		ドヤ・アパート	飯場・施設等	
なし	33	16	4	53
%	67.3	35.6	20.0	46.5
生活保護	6	11	5	22
%	12.2	24.4	25.0	19.3
国民健康保険	1	10	5	16
%	2.0	22.2	25.0	14.0
日雇い健康保険	8	8	5	21
%	16.3	17.8	25.0	18.4
その他	1		1	2
%	2.0		5.0	1.8
合計	49	45	20	114
%	100.0	100.0	100.0	100.0

表A-4
住まいの状況別にみた収入源

	野宿者	簡易宿泊投宿者		合計
		ドヤ・アパート	飯場・施設等	
特別清掃	11	6		17
%	22.4	13.0		14.8
カン・古雑誌集め	13	1		14
%	26.5	2.2		12.2
少し年金がある		2	1	3
%		4.4	5.0	2.6
他の現金仕事がある	18	16	14	48
%	36.7	34.8	70.0	41.7
ダンボール集め				
%				
その他	17	21	5	43
%	34.7	45.7	25.0	37.4
n	49	46	20	115

表A-5
住まいの状況別にみた収入

	野宿者	簡易宿泊投宿者		合計
		ドヤ・アパート	飯場・施設等	
なし	6	2	1	9
%	14.0	5.4	5.0	9.0
10000円未満	2	1		3
%	4.6	2.7		3.0
10000～30000円未満	13	3	2	18
%	30.2	8.1	10.0	18.0
30000～50000円未満	5	2	1	8
%	11.6	5.4	5.0	8.0
50000～100000円未満				
%	25.6	16.2	5.0	18.0
100000円以上				
%	14	62.2	75	44
合計	43	37	20	100
%	100.0	100.0	100.0	100.0

表A-6
住まいの状況別にみた差ヶ崎に来てからの年数

	野宿者	簡易宿泊投宿者		合計
		ドヤ・アパート	飯場・施設等	
1年未満	6	3	7	16
%	12.2	7.3	35.0	14.5
1～2年	4	2	1	7
%	8.2	4.9	5.0	6.4
3～9年	13	12	2	27
%	26.5	29.3	10.0	24.5
10～19年	8	8	7	23
%	16.3	19.5	35.0	20.9
20年以上	18	16	3	37
%	36.7	39.0	15.0	33.6
合計	49	41	20	110
%	100.0	100.0	100.0	100.0

表A-7
住まいの状況別にみた自分の健康について

	野宿者	簡易宿泊投宿者		合計
		ドヤ・アパート	飯場・施設等	
とてもよい	5	3	1	9
%	10.2	6.7	5.3	8.0
どちらかといえばよい		7	4	11
%		15.6	21.1	9.7
ふつう	10	15	6	31
%	20.4	33.3	31.6	27.4
どちらかといえば悪い	19	7	5	31
%	38.8	15.6	26.3	27.4
悪い	15	13	3	31
%	30.6	28.9	15.8	27.4
合計	49	45	19	113
%	100.0	100.0	100.0	100.0

表A-8
住まいの状況別にみた退院後に最も困ること

	野宿者	簡易宿泊投宿者		合計
		ドヤ・アパート	飯場・施設等	
住まいのこと	38	19	10	67
%	77.6	42.2	52.6	59.3
食事のこと	10	9	2	21
%	20.4	20.0	10.5	18.6
衣類のこと	2	1	1	4
%	4.1	2.2	5.3	3.5
健康のこと	10	14	5	29
%	20.4	31.1	26.3	25.7
仕事のこと	15	11	10	36
%	30.6	24.4	52.6	31.9
その他	2	8	1	11
%	4.1	17.8	5.3	9.7
n	49	45	19	113

表A-9
住まいの状況別にみた肥満度

	野宿者	簡易宿泊投宿者		合計
		ドヤ・アパート	飯場・施設等	
やせ	10	4		14
%	20.4	8.7		12.2
標準	30	31	16	77
%	61.2	67.4	80.0	67.0
肥満	9	11	4	24
%	18.4	23.9	20.0	20.9
合計	49	46	20	115
%	100.0	100.0	100.0	100.0

表B-1-1
住まいの状況と喫煙状況

	野宿者	簡易宿泊投宿者		合計	A市		I市	国民栄養調査
		ドヤ・アパート	飯場・施設等		50歳代(男)	50歳代(男)		
吸う	43	37	15	95				
%	87.8	80.4	75.0	82.6	54.4	47	48.1	
禁煙した	3	5	2	10				
%	6.1	10.9	10.0	8.7	28.1	11	26.1	
もともと吸わない	3	4	3	10				
%	6.1	8.7	15.0	8.7	17.5	42	25.7	
合計	n	49	46	20	115			
%		100.0	100.0	100.0	100.0	100	100	100

表B-1-2
住まいの状況と喫煙本数

	野宿者	簡易宿泊投宿者		合計	A市		I市	国民栄養調査
		ドヤ・アパート	飯場・施設等		50歳代(男)	50歳代(男)		
10本以下	11	8	1	20				
%	25.6	21.6	6.7	21.1		14.2	1.6	
11~20本	28	21	7	56				
%	65.1	56.8	46.7	58.9		33.8	8.6	
21~40本	3	7	7	17				
%	7.0	18.9	46.7	17.9		44.2	22.2	
41本以上	1	1		2				
%	2.3	2.7		2.1	平均26本	7.8	15.6	
合計	n	43	37	15	95			
%		100.0	100.0	100.0	100.0	100	100	100

表B-2-1
住まいの状況と飲酒状況

	野宿者	簡易宿泊投宿者		合計	A市		I市	国民栄養調査
		ドヤ・アパート	飯場・施設等		50歳代(男)	50歳代(男)		
はい	31	31	15	77				
%	63.3	67.4	75.0	67.0	54.4	47	48.1	
禁酒した	7	5	4	16				
%	14.3	10.9	20.0	13.9	28.1	11	26.1	
もともと飲まない	11	10	1	22				
%	22.4	21.7	5.0	19.1	17.5	42	25.7	
合計	n	49	46	20	115			
%		100.0	100.0	100.0	100.0	100	100	100

表B-2-2
住まいの状況と飲酒の種類(複数回答)

	野宿者	簡易宿泊投宿者		合計
		ドヤ・アパート	飯場・施設等	
日本酒	18	17	6	41
%	58.1	54.8	40.0	53.2
焼酎	14	6	3	23
%	45.2	19.4	20.0	29.9
ビール	16	16	12	44
%	51.6	51.6	80.0	57.1
ウイスキー	1	4	1	6
%	3.2	12.9	6.7	7.8
ワイン	2	2	1	5
%	6.2	6.5	6.7	6.5
その他		1	1	2
%		3.2	6.7	2.6
合計	n	31	31	15
		31	15	77

表B-2-3
住まいの状況と飲酒の摂取頻度

	野宿者	簡易宿泊投宿者		合計	A市		I市
		ドヤ・アパート	飯場・施設等		50歳代(男)	50歳代(男)	
毎日飲んでいた	20	18	10	48			
%	69.0	60.0	66.7	64.9	55.8	50.6	
週に5~6日飲んだ		2		2			
%		6.7		2.7			
週に3~4日飲んだ	6	6	2	14			
%	20.7	20.0	13.3	18.9	8.8	13.6	
週に1~2日飲んだ	1	1	3	5			
%	3.4	3.3	20.0	6.8	7.3	8	
たまに飲む程度	2	2		4			
%	6.9	6.7		5.4	10.9	14.2	
ほとんど飲まなかった		1		1			
%		3.3		1.4	17.2	13.8	
合計	n	29	30	15	74		
%		100.0	100.0	100.0	100.0	100	100

表B-2-4
住まいの状況と飲酒量(日本酒合換算)

		野宿者		簡易宿泊投宿者		合計
				ドヤ・アパート	飯場・施設等	
1合未満		1	3	2		6
	%	3.3	9.4	11.8		7.6
1合～3合未満		2	3	3		8
	%	6.7	9.4	17.6		10.1
3合～5合未満		17	18	8		43
	%	56.7	56.3	47.1		54.4
5合以上		10	8	4		22
	%	33.3	25.0	23.5		27.8
合計	n	30	32	17		79
	%	100.0	100.0	100.0		100.0

表B-2-5
住まいの状況と「毎日飲んだ」と回答した者の飲酒状況(複数回答)

		野宿者		簡易宿泊投宿者		合計
				ドヤ・アパート	飯場・施設等	
1.酒を飲んだ翌朝に前夜のことを 所々思い出せないことがしばしば		7	9	4		20
	%	35.0	50.0	40.0		41.7
2.適量でとめようと思っても、つい 酔いつぶれるまで飲んでしまう(%)		7	4	5		16
	%	35.0	22.2	50.0		33.3
3.周囲の人(友人、家族など)から 大酒のみと非難されたことがある(%)		6	4	2		12
	%	30.0	22.2	20.0		25.0
4.せめて今日だけは酒を飲むまい と思っても、つい飲んでしまうことが多し		12	6	5		23
	%	60.0	33.3	50.0		47.9
5.酒が原因で大切な人(家族や友人 関係)にひびが入ったことがある(%)		5	7	2		14
	%	25.0	38.9	20.0		29.2
6.上記のようなことはとくにない		7	12	3		22
	(%)	35.0	66.7	30.0		45.8
	n	20	18	10		48

表B-3-1
住まいの状況と睡眠状況

		野宿者		簡易宿泊投宿者		合計
				ドヤ・アパート	飯場・施設等	
よく眠れる		10	13	7		30
	%	20.4	28.3	35.0		26.1
まあ眠れる		17	15	6		38
	%	34.7	32.6	30.0		33.0
あまり眠れない		17	12	6		35
	%	34.7	26.1	30.0		30.4
ほとんど眠れない		5	6	1		12
	%	10.2	13.0	5.0		10.4
合計	n	49	46	20		115
	%	100.0	100.0	100.0		100.0

表B-3-2
住まいの状況と睡眠時間

		野宿者		簡易宿泊投宿者		合計
				ドヤ・アパート	飯場・施設等	
3時間未満		11	8	4		23
	%	23.0	17.7	20.0		2.7
4時間～5時間		18	14	4		36
	%	37.5	31.1	20.0		3.5
6時間～7時間		12	20	8		40
	%	25.0	44.5	40.0		14.2
8時間以上		7	3	4		14
	%	14.6	6.6	20.0		19.5
合計	n	48	45	20		113
	%	100.0	100.0	100.0		100.0

表B-4
住まいの状況とストレスの負担感

		野宿者		簡易宿泊投宿者		合計	A市		国民栄養調査
				ドヤ・アパート	飯場・施設等		50歳代(男)	50歳代(男)	
影響なし		18	23	5		46			
	%	36.7	50.0	25.0		40.0	12.9	28.9	
少し		3	6	3		12			
	%	6.1	13.0	15.0		10.4	56.9	45.8	
ある程度		16	9	9		34			
	%	32.7	19.6	45.0		29.6	30.2	25.3	
かなり強い		9	3	3		15			
	%	18.4	6.5	15.0		13.0			
非常に強い		3	5			8			
	%	6.1	10.9			7.0			
合計	n	49	46	20		115			
	%	100.0	100.0	100.0		100.0	100.0	100.0	

表B-5
住まいの状況と排便状況

		野宿者	簡易宿泊投宿者		合計
			ドヤ・アパート	飯場・施設等	
1日1回以上		30	36	14	80
%		61.2	78.3	70.0	69.6
2～3日に1回		14	9	6	29
%		28.6	19.6	30.0	25.2
1週間に1回		2	1		3
%		4.1	2.2		2.6
その他		3			3
%		6.1			2.6
合計	n	49	46	20	115
	%	100.0	100.0	100.0	100.0

表C-1
住まいの状況と朝食の摂取頻度

		野宿者	簡易宿泊投宿者		合計	国民栄養調査		
			ドヤ・アパート	飯場・施設等		A市 50歳代(男)	I市 50歳代(男)	一人世帯
毎日食べていた		17	34	13	64			
%		34.7	75.6	65.0	56.1	79.5	86	93.9
週5～6日食べていた		1	1	1	3			
%		2.0	2.2	5.0	2.6			
週3～4日食べていた		7		1	8			
%		14.3		5.0	7.0	4.8	6.7	
週1～2日食べていた		1	1		2			
%		2.0	2.2		1.8	5.4	1.8	
たまに食べる程度		9	5	1	15			
%		18.4	11.1	5.0	13.2			
ほとんど食べなかった		14	4	4	22			
%		28.6	8.9	20.0	19.3	10.3	5.5	6.1
合計	n	49	45	20	114			
	%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

表C-2
住まいの状況と昼食の摂取頻度

		野宿者	簡易宿泊投宿者		合計	国民栄養調査	
			ドヤ・アパート	飯場・施設等		一人世帯	
毎日食べていた		22	35	14	71		
%		44.9	77.8	70.0	62.3	97.5	
週5～6日食べていた		2		2	4		
%		4.1		10.0	3.5		
週3～4日食べていた		8	2	3	13		
%		16.3	4.4	15.0	11.4		
週1～2日食べていた		1	2		3		
%		2.0	4.4		2.6		
たまに食べる程度		8	4		12		
%		16.3	8.9		10.5		
ほとんど食べなかった		8	2	1	11		
%		16.3	4.4	5.0	9.6	2.5	
合計	n	49	45	20	114		
	%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	

表C-3
住まいの状況と夕食の摂取頻度

		野宿者	簡易宿泊投宿者		合計	国民栄養調査	
			ドヤ・アパート	飯場・施設等		一人世帯	
毎日食べていた		26	38	18	82		
%		53.1	86.4	90.0	72.6	97.5	
週5～6日食べていた		6			6		
%		12.2			5.3		
週3～4日食べていた		8	2		10		
%		16.3	4.5		8.8		
週1～2日食べていた		2			2		
%		4.1			1.8		
たまに食べる程度		5	3	1	9		
%		10.2	6.8	5.0	8.0		
ほとんど食べなかった		2	1	1	4		
%		4.1	2.3	5.0	3.5	2.5	
合計	n	49	44	20	113		
	%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	

表C-4
住まいの状況と一週間に食事を一食も食べられなかった日数

		野宿者		簡易宿泊投宿者		合計
				ドヤ・アパート	飯場・施設等	
0日		26	43	17		86
	%	53.1	95.6	85.0		75.4
1日		10	1	1		12
	%	20.4	2.2	5.0		10.5
2日		7		1		8
	%	14.3		5.0		7.0
3日		4	1			5
	%	8.2	2.2			4.4
4日以上		2		1		3
	%	4.1		5.0		2.6
合計	n	49	45	20		114
	%	100.0	100.0	100.0		100.0

表C-5
住まいの状況と食べ物の入手先(複数回答)

		野宿者		簡易宿泊投宿者		合計
				ドヤ・アパート	飯場・施設等	
自炊		2	10	5		17
	%	4.1	22.7	25.0		15.0
弁当を買う		28	29	11		68
	%	57.1	65.9	55.0		60.2
外食		20	18	11		49
	%	40.8	40.9	55.0		43.4
炊き出し		20	1	1		22
	%	40.8	2.3	5.0		19.5
コンビニ廃棄食品		12	4			16
	%	24.5	9.1			14.2
残飯						
	%					
仲間の差し入れ		2				2
	%	4.1				1.8
キリストのパン		10				10
	%	20.4				8.8
その他		1	6	6		13
	%	2.0	13.6	30.0		11.5
	n	49	44	20		113

表C-6-1
住まいの状況と炊き出しを利用について

		野宿者		簡易宿泊投宿者		合計
				ドヤ・アパート	飯場・施設等	
はい		33	13	4		50
	%	68.8	31.0	20.0		45.5
いいえ		15	29	16		60
	%	31.3	69.0	80.0		54.5
合計	n	48	42	20		110
	%	100.0	100.0	100.0		100.0

表C-6-2
住まいの状況と炊き出しの利用頻度

		野宿者		簡易宿泊投宿者		合計
				ドヤ・アパート	飯場・施設等	
毎日1回以上		4	2	1		7
	%	12.5	15.4	25.0		14.3
週に3回		7	6	1		14
	%	21.9	46.2	25.0		28.6
週に1~2回		12	1	1		14
	%	37.5	7.7	25.0		28.6
ほとんど利用しなかった		9	4	1		14
	%	28.1	30.8	25.0		28.6
合計	n	32	13	4		49
	%	100.0	100.0	100.0		100.0

表C-6-3
住まいの状況と炊き出しの利用場所(複数回答)

		野宿者		簡易宿泊投宿者		合計
				ドヤ・アパート	飯場・施設等	
四角公園		13	3	3		19
	%	40.6	23.1	75.0		38.8
三角公園		27	6	2		35
	%	84.3	46.2	50.0		71.4
中ノ島公園		2	2			4
	%	6.3	15.4			8.2
その他		6		1		7
	%	18.8		25.0		14.3
	n	32	13	4		49

表C-7-1
住まいの状況とインスタントラーメン等の摂取頻度

	野宿者	簡易宿泊投宿者		合計	
		ドヤ・アパート	飯場・施設等		
毎日食べていた	4	3		7	
%	8.2	6.5		6.1	
週5～6日食べていた	1	1		2	
%	2.0	2.2		1.7	
週3～4日食べていた	6	5	2	13	
%	12.2	10.9	10.0	11.3	
週1～2日食べていた	12	9	5	26	
%	24.5	19.6	25.0	22.6	
たまに食べる程度	11	13	6	30	
%	22.4	28.3	30.0	26.1	
ほとんど食べなかった	15	15	7	37	
%	30.6	32.6	35.0	32.2	
合計	n	49	46	20	115
	%	100.0	100.0	100.0	100.0

表C-7-2
インスタントラーメンの摂取個数(食べていた人の中で)

	野宿者	簡易宿泊投宿者		合計	
		ドヤ・アパート	飯場・施設等		
毎日食べていた	32	26	13	71	
%	88.9	86.7	100.0	89.9	
週5～6日食べていた	3	4		7	
%	8.3	13.3		8.9	
週3～4日食べていた	1			1	
%	2.8			1.3	
合計	n	36	30	13	79
	%	100.0	100.0	100.0	100.0

表C-7-3
住まいの状況とインスタントラーメンの摂取頻度

	野宿者	簡易宿泊投宿者		合計	
		ドヤ・アパート	飯場・施設等		
少しだけ飲んだ	1		1	2	
%	2.7		7.7	2.5	
半分くらい飲んだ	4	8	3	15	
%	10.8	27.6	23.1	19.0	
少し残しほとんど飲んだ	5		1	6	
%	13.5		7.7	7.6	
全部飲んだ	27	21	8	56	
%	73.0	72.4	61.5	70.9	
合計	n	37	29	13	79
	%	100.0	100.0	100.0	100.0

表C-8
住まいの状況と卵・肉・魚類の摂取頻度

	野宿者	簡易宿泊投宿者		合計	
		ドヤ・アパート	飯場・施設等		
毎日食べていた	11	26	15	52	
%	22.4	56.5	75.0	45.2	
週5～6日食べていた	5	1		6	
%	10.2	2.2		5.2	
週3～4日食べていた	9	10	4	23	
%	18.4	21.7	20.0	20.0	
週1～2日食べていた	9	6		15	
%	18.4	13.0		13.0	
たまに食べる程度	8	2		10	
%	16.3	4.3		8.7	
ほとんど食べなかった	7	1	1	9	
%	14.3	2.2	5.0	7.8	
合計	n	49	46	20	115
	%	100.0	100.0	100.0	100.0

表C-9
住まいの状況と漬物以外の野菜の摂取頻度

	野宿者	簡易宿泊投宿者		合計	合計	
		ドヤ・アパート	飯場・施設等		A市 50歳代(男)	I市 50歳代(男)
毎日食べていた	6	13	4	23		
%	12.2	28.3	20.0	20.0	18.2	65.9
週5～6日食べていた	2			2		
%	4.1			1.7		
週3～4日食べていた	3	6	7	16		
%	6.1	13.0	35.0	13.9	39.1	15.2
週1～2日食べていた	3	9	3	15		
%	6.1	19.6	15.0	13.0	39.4	16.5
たまに食べる程度	16	7	3	26		
%	32.7	15.2	15.0	22.6		
ほとんど食べなかった	19	11	3	33		
%	38.8	23.9	15.0	28.7	3.3	2.4
合計	n	49	46	20	115	
	%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0